

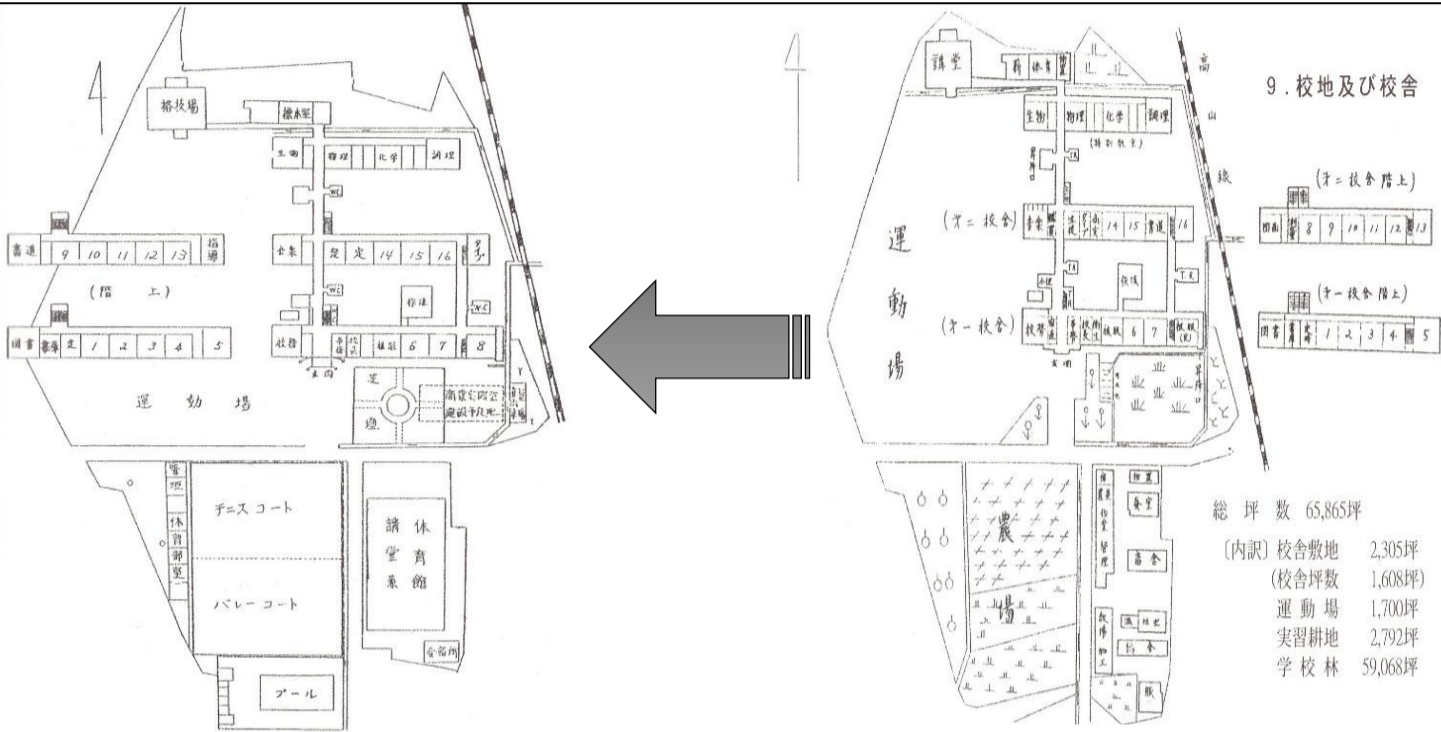
昭和34年(1959年)

農業科廃止と施設拡充

益田農林学校を継承していた農業科が廃科になり、学校施設の拡充が行われ、商業実践棟が新築されました。

学校施設の拡充

農業科で使っていた農場がテニスとバレーのコートやプールになり、鶏舎や畜舎のあったところには、講堂兼体育館が新設されました。校舎では、商業実践室や図書館などが増設され、今の基盤となる形へと変化していきました。左の資料は、廃科した農業科と施設の拡充で改設された商業科の配置図です。



農業科の思い出

小池 幸造(昭和31年卒)
今年も益高の歴史を語り継ぐかのように、農林坂の桜が爛漫と咲き誇っている。

農業科が廃科となったのが、私達の卒業後数年後のこと。今は当時の面影も無い程の変貌振りである。当時は現在の向学館の辺りが農業科の実習棟、温室、畜舎等が立ち並び、その中央に益田農林学校の面影を留める二宮金次郎の像が建てられていた。実習棟も旧校舎が移築されていたように記憶している。また道路を挟んで西側の現在のテニスコートとプールの辺りは圃場で主に野菜が栽培されていた。四季折々の野菜が収穫され職員の方や近在の奥さんに販売されていた。当時珍しくイチゴの露地栽培がされており時折おこぼれに舌鼓をうった。農業実習は殆ど手作業であったが、三年生の時初めてロータリー式耕耘機が導入され、農業の機械化に心を躍らせ操作の練習に汗したものでした。

校門の両脇には花卉圃があり花菖蒲、雪柳、薔薇等の四季折々の花が咲き、冬は当時では珍しい葉牡丹で彩られていた。

JR萩原駅の東に実習田があり膝までつかるほど深い田圃で、苗取り、葉上から刈り取り作業の実習に従事した。当時は水苗代が一般的であり、実習田では保温折衷苗代が採用されていた。

(中略)

記憶違いの点多々あるように思えるが、もはや薄らいだ高校3年間の遠い記憶を辿りながら、今回懐かしい思い出に浸ることができた。

80周年記念誌(寄稿文)より

拡充された施設・設備

